

# 神保町マップ



## 地図の見方

.....→ ツアー順路

● 古書店

● 飲食店

● 出版社

● その他



「僕は或初夏の午後、谷崎氏と神田をひやかしに出かけた。谷崎氏はその日も黒背広に赤い襟飾りを結んでゐた。僕はこの壮大なる襟飾りに、象徴せられたるロマンティズムを感じた。  
(中略) その内に僕等は眞神保町の或カフェへ腰を下した。何でも喉の乾いたため、炭酸水か何か飲みにはひつたのである。僕は飲みものを注文した後も、つらつら谷崎氏の喉もとに燃えたロマンティズムの烽火を眺めてゐた。・・・」

芥川龍之介の随筆「谷崎潤一郎氏」(大正13年1月)『芥川龍之介全集6』筑摩書房(P.177)収録

「神保町の路地裏、木造2階建ての昭森社ビル。13段の急な階段を上った2階のわずか10坪ほどの空間で、書肆ユリイカは昭森社、思潮社と同居しながら独自の世界を創出していた。ここで伊達得夫は、13年の年月の間に二百数十冊もの奔放自在な造本表現を展開したのだ。美しい書物を作ることは容易ではなく、四苦八苦する出版社がほとんどだが、書肆ユリイカの本には、そうした背景を感じさせない軽やかさがある。」

田中葉『書肆ユリイカの本』青土社 より